

教宣 せぶん

人事を尽くして判決を待つ

「人事を尽くして天命を待つ」。やれるべきことはすべてやり尽くして、できることはすべてやり切って、後は運命に従いましょうという意味ですが、個人的に好きな諺です。どういう判決が下されるかわかりませんが、25日の夜にはこの諺の心境で就寝したいと思います。この諺のようにやれるべきことはすべてやり切ったというスッキリした心境で26日を迎えたいと思います。理論的、戦術的な考え方は抜きにして、もしスト権を行使せずして、判決日を迎えるとしたら、はたして「人事を尽くした」という心境になれるでしょうか？ 効果がある、ないは別にして、自らの気持ちの中に、おそらくやり残したことがあったという後悔の念がわいてくると思います。私たち働くものの最大の武器・権利といえば「スト権」です。要求実現のために労務の提供をボイコットするわけですから、賃金カットされることも含めて、まさに肉を切らせて骨を絶つ戦法だといえます。その私たちがやれるべき最大の武器を行使せずして、このたたかいの判決日を迎えるとしたら、やはり「やり切った」という心境にはなれないと思います。

会社がスト通告した団交の席で「驚きのリアクション」をしたことは前号にも記しました。その際には「ストを行なっていることを私たちの顧客に話す」と言っていました。フタを開けてみれば会社はストが行なわれている痕跡を決して表に出そうとしていません。また、ストを行なう組合員が所属する支社のメンバー全員に、前もってメールを流し、同じ職場に働くものがスト権を行使するという情報を細かく流しています。これは、スト権を行使したたたかいの影響や波紋を事前に少しでも抑えようとしている会社の姿に他なりません。それだけ「スト」の影響を気にしている裏返しでもあります。それとともに、「ストを打つことが回りからどう思われるかわかっているのか？」ということ、私たち一人ひとりに突きつけ、たたかうエネルギーを削いだり、組織分断を狙ってきたりしているのかもしれない。多勢に無勢の職場では、同じフロアに働くものがスト権の行使について何の感情も持っていなかったとしても「白い目でみられているかもしれない」という意識に陥らないとも限りません。

しかし、同じフロアで働く人たちも私たちと同じ労働者です。大資本の前で一人の労働者がどれだけの力を示せるか、その「悲哀」について共通できる認識があると思います。それぞれの立場があって決して声には出せないでしょうが、心のどこかで私たちと共通の「思い」が必ずあると思います。スト権行使はまちがいなくこのたたかいに大きな効果をもたらしています。会社の揺動作戦にのらず、すべてやり切ったという晴れやかな気持ちで26日を迎えましょう。